

第5学年 道徳科指導案

指導者 淵 向 大 輝

I 主題名 「親身な対応」

教材名 くずれ落ちたダンボール箱（みんなの道徳5年「学研教育みらい」令和元年度版）

II 主題設定の理由

1 主題について

- 児童にとって学校生活は、思いやりの心をもって人に接する場面や、相手のことを考え親切な行為をする場面が多くあり、事実、困っている友達に対して優しく声をかける姿や配布物を配っている友達に対して自然と手伝ったり、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする姿が見られる。そのような姿は、本校の教育目標である「おもいやりのある子」につながる心情や態度が、上学年を手本に脈々と受け継がれていると感じる部分でもある。

しかし、全体としてみれば、思いやりの心をもってはいるが、親切な行為をとることに難しさを感じている児童も多くいる。その要因として、頭では分かっているも手を差し伸べる勇気が出なかったり、過去の苦い思い出を思い出してしまったりすることが挙げられる。また、他人に任せてしまう気持ちや一步踏み出す勇気が足りないという心の弱さがあることも考えられる。児童には、それらを乗り越えてまでも困っている人を助けたいという思いやりの心やそれに伴う親切な行為の両方が求められる。

本当の親切とは何かを考えさせることで、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考え、親切な行為をしていこうとする心情を培っていきたい。

- 第5学年及び第6学年の項目内容「親切、思いやり」における指導の要点は、「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること」となっている。

これは、自分を他の人とのかかわりの中でとらえ、よりよい人間関係の育成を図ることを目標としたものである。低学年からの発展性を見ると、「親切、思いやり」を向ける対象が、「身近な人」「相手のこと」「誰に対しても」というように弱い立場の人から一般的な人々へと親切な行動の範囲を広げていくことを最終目標としている。「思いやり」とは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。また、「親切」とは、相手に寄り添い、自分の想いが行き届くようにするという意味があり、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりすることを通して、励ましや援助をすることである。つまり、なんとかしてあげたいという自然な気持ちがあった上で、具体的な行動が誘発されていく。

高学年になると、自分や他人を客観的に捉えることができるようになる段階であるからこそ、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像し、どのように接し、対処することが相手のためになるのか考えさせる必要がある。本当の親切とは、行為の相手を選んだり、見返りを期待したりするものではなく、たとえ人に認められなくても相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することができることをいう。思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、全ての人に広げていこうとする態度を育てていきたい。

- 冬休みのある日、ショッピングセンター内で、高く積まれた段ボール箱を男の子が崩してしまう。一緒にいたその子のおばあさんに代わり、わたしと友子は段ボールを整理するが、事情を知らない店員に叱られてしまう。おばあさんにお礼を言われても今一つすっきりしない「わたし」だったが、3学期の始業式で校長先生から店員さんからの謝罪と感謝の手紙を紹介され、二人の心が明るくなるという話である。

段ボールを片付けるわたしの気持ちや店員に誤解を受けて、複雑な思いになる気持ちを考えさせることを通して、親切な行動の原動力となっている思いは何かを捉えさせていくことができる教材であると考え。親切な行為は見返りを求めてするものではなく、相手の立場に立って考え、行動することが大切であることに気付かせるのに適した内容である。

2 復興教育（3つの教育価値）との関連

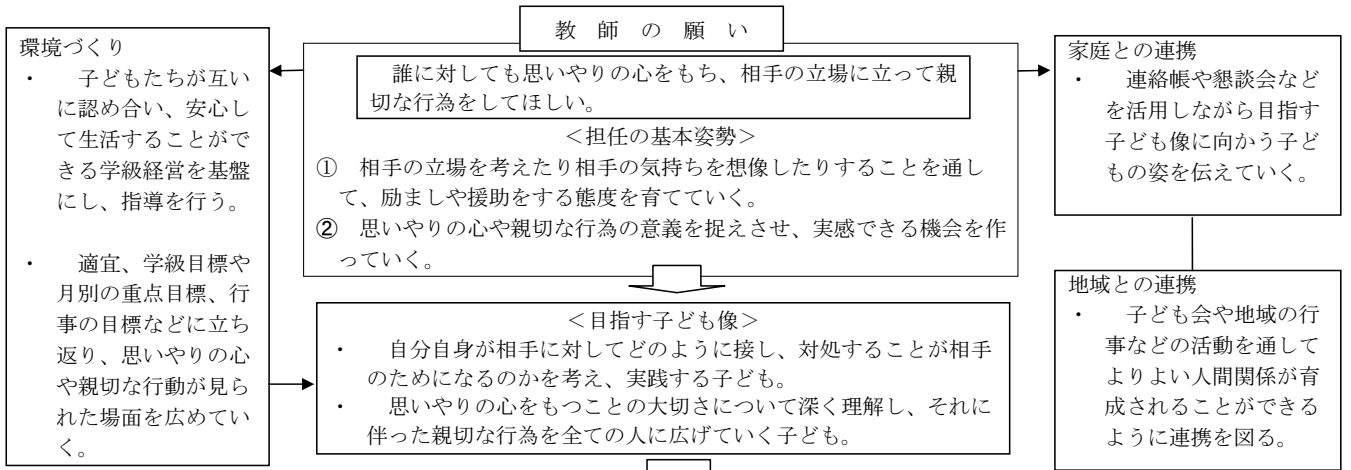
- いきる「①【価値ある自分】」とのかかわり

よりよい生き方とは何かを考えることを通して、自分のよさや可能性を実感し、生活に生かしていく。

- かかわる「⑨【仲間とのつながり】」とのかかわり

他者と話し合うことを通して、思いやりの心もち、親切な行動をしていくことの大切さを感じ、人とのかかわりを深めていく。

Ⅲ 指導の構想（関連と発展） 「相手に対する思いやりの心をもち親切にすること」を育てる学級における指導の構想図



月	学級活動・体験的活動	特別の教科 道徳（道徳科）	各教科の学習	日常指導・その他
	(学) 学級活動 (行) 学校・児童会行事 (体) 体験的な活動	思いやり・親切に関する項目内容を扱う。	左記の道徳の時間にかかわりのある学習と関連を図る。 (体) 体験的な活動	子どもの実態に即し、継続的な指導を図る。
4月	○「学級目標を決めよう」(学) 学級で学習面・生活面を向上させるために必要なことは何かを考え、よりよい生活を目指そうとする意欲を育てる。		○家庭科「わたしと家庭生活」(4月) 家庭生活に関心をもち、家族の一員として家庭の仕事をし、家族に協力したりしようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが責任をもって係活動ができるように働きかける。 朝や帰りに友達と努力している姿を見つけて知らせることができるように働きかける。 自分が立てた目標に向かって前向きに生活できるようにする。 学校生活において、責任感をもって最後まで取り組むことができる他の友達を紹介し、みんなで認め合えるようにする。 教師が最後までやりぬくことの大切さや素晴らしさを子どもたちに伝えることにより、しなければならぬことは最後までやり遂げようとする雰囲気をつくる。 相手の考えを受け入れて、相手の立場になって考えている場面を教師が具体的に取り上げ紹介する。 1日の学校生活で思いやりや親切が見られた行動に対し、要因となった心の働きを広め、価値づける場を設定する。
5月	○「林間学校を成功させよう」(体) 林間学校の計画や準備を知り、協力して楽しい林間学校にしようとする意欲を育てる。		○社会科「住みよいくらしと環境」(5月) 様々な自然環境のもとでの人々の暮らしについて意欲的に調べ、自然と人間がどうかかわっているか判断する力を養う	
6月	○「異年齢活動」(行) 縦割り掃除や仁王タイムの活動 異年齢が集う活動で、相手の立場を考え、思いやりや親切な行動をしていこうとする意欲を育てる。	◇「くずれ落ちた段ボール箱」(6月) 相手の立場に立ち、だれに対しても思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。	○理科「魚のたんじょう」(6月) 水槽や池などの水中の小さな生き物に興味をもち、小さな命を大切にしようとする心情を養う。	
7月	○「陸上記録会・球技大会」(行) 選手団・応援団としての立場を考え、相手のためになる行動をしていこうとする意欲を育てる。	◇「思いもよらぬ出来事」(10月) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場になって親切にしようとする態度を養う。	○体育科「水泳」(7月) プールのきまりや水泳の心得を守り、友達と助け合いながら学習しようとする態度を養う。	
9月	○「大運動会・全校音楽集会」(行) 全校が一丸となって協力し合い、それぞれの立場を理解し、行動していこうとする意欲を育てる。	◇「台湾からの転入生」(2月) 相手の立場に立って考え、思いやりの心をもち温かく親切に接しようとする態度を養う。	○特別活動「教生の先生を迎える会をしよう。」(8月) 自分たちのよさを知らせる活動などを取り入れ、教生の先生とともに、さらに学級生活を向上させようとする態度を養う。	
10月	○「6年生を送る運動・6年生を送る会」(行) 2月・3月 相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、励ましや援助をする態度を養う。		○体育科保健「心と健康」(12月) 心の発達とともに、身の回りの人とよりよくなかかわっていこうとする態度を養う。	
11月			○社会科「情報を上手に使いこなす」(1月) 暮らしの中での情報の活用の仕方について関心をもち、適切に活用しようとする態度を養う。	
2月			○国語科「わらぐつの中の神様」(2月) 登場人物どうしの関係、人物像、場所、時、背景から、人とかかわり方をよりよくしようとする態度を養う。	
3月				

国語
社会
算数
理科
生活
音楽
図画工作
家庭
体育
外国語
道徳
総合
特別活動
特別支援

IV 指導計画

1 内容項目7「親切、思いやり」で育む資質・能力

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
自分ができることを考え、相手にとってよりよい行動をすることが大切なことであるという理解を深める。	相手の立場や状況を捉えた上で、どのように行動するとよいか具体的に考え、判断することができる。	相手の立場や状況を考えて行動することができた自分を振り返ったり、これからの人とのかかわり方を考えたりしながら自分の生活に生かそうとする。

※ 道徳科においての資質・能力のとらえは、子ども達の評価基準として扱うものではなく、指導者自身が、目指す子どもの姿につなげるためのものである。また、その子どもの道徳性の評価とするものではない。

2 学びのつながり

- 児童はこれまで、道徳の授業と日常生活をつなげながらよりよい人間関係を築く上で求められる思いやりの心や親切な行動について経験を通し学んできた。道徳の授業では、相手の気持ちを考えたり、思いを想像したりしながら友達とかかわることのよさを学び、実際に林間学校などの行事で、学びを生かすことができた。
- それを生かし、本単元では、相手の立場に立ち、自分事として物事を考えることを通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、親切な行動をしていくことのよさに気付かせ、自分の弱い心を乗り越えてまでも困っている人を助けたいという思いやりの心やそれに伴う親切な行為をしていこうとする心情を育てていく。
- 学んだことは、今後多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会で発揮され、相手の立場に立ち、思いやりの心をもって接することで、よりよい人間関係を築くことができると考える。また、このような力は今後生きていく上で必ず必要な力になってくることから、本授業だけで完結させず、教育活動全体を通して、親切な行動や思いやりの心を養っていく必要がある。

V 本時の指導構想

1 本時の指導

「導入」の段階では、見知らぬ人を助けた経験はあるか、そのときどんな気持ちをはたらかせて行動したか振り返らせることで、教材の中の主人公がとった行動について考えを深めていく。また、相手が知らない人ではなく、友達や先生だったらどうだったかを問い、本時の「親切にするときの心のはたらき」について課題意識へとつなげていく。

「問題の分析・追求」の段階では、教材を前半と後半に分けて読むことで、前半では、段ボールをくずした状況を捉え、主人公がなぜ、直そうと判断し行動したのか考えていく。手立て1を組み、自分だったらどうするか根拠をもって話せるようにネームプレートを貼らせる。子どもたちの考えが出てくる中で、考えを整理したり、分類したりすることでその行為に至った根拠を明らかにしていく。その後、おばあさんには感謝されたが、店員さんには認められなかった「わたし」の行動や思いについて話し合い、ねらいへとせまっていく。最初は、崩れ落ちた段ボール箱を見た「わたし」の気持ちを考えさせることで、児童が導入で感じた「恥ずかしさ」や「声をかける勇氣」などの心の葛藤を乗り越えてとった行動であることを価値付ける。また、その行動の裏にはどんな思いがあったのかを捉えさせることで、相手の立場に立って考えるというねらいへとつなげていく。店員さんに叱られた後、おばあさんのお礼に対して発した「いいえ、いいんです……。」という言葉の意味を考えることで、「わたし」が感じている複雑な思いに共感させる。

「価値の感得・理解」では、教材の板書を見せ、最後には明るい表情になった理由を考えながら資料の後半を読むことで、単に誤解が解けて認められたからだけではなく、自分たちの行動がおばあさんやお店の人の役に立てた実感があつたこと、認められなかったとしても行動が素晴らしいものであつたことなどに気付かせ、どんなことを大切にしていきたいかをまとめる。

「価値の主体化」の段階では、研究の手立て2を組み、同じような場面を課題として挙げる。教材を通して感じた「親切にするときの心のはたらき」とは何かをもとに、学んだことを生かして自分はどうのように判断し、行動するか話し合うことで相手の立場に立って行動しようとする今後の生活への意欲をもたせる。

2 展開の概要

(1) ねらい

○ 相手の立場に立ち、誰に対しても思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

(2) 展開

階段	時間	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の働き	研究に関わる手立て	指導上の留意点 【見取りの視点】
問題の把握	6	1 道徳的価値への関心をもつ。 ○ 今までに知らない人を助けたことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 荷物をもって両手がふさがっていたので、横断歩道のボタンを押してあげた。 自分より小さい子のためにドアを開けてあげた。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 助けたいのに行動に移せなかった状況やその理由を聞き合う。 友達だったらどう行動できたか問い、親切的な行動の在り方に問題意識をもたせる。
		親切にするとときに大切な心のはたらきとは何だろう。			
問題の分析・追求	12	2 教材（前半）を読み、本時の学習の方向性を確認する。 ○ 主人公の行動で心に残ったところはどこですか。	<ul style="list-style-type: none"> 段ボール箱を直したところ。 店員さんに勘違いされて怒られたところ。 おばあさんにお礼を言われたところ。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 資料の前半だけ読み、主人公の気持ちに重ねさせる。 ◆ 主人公のむしゃくしゃした気持ちを捉え、話合いの方向性として確かめる。
		3 主人公の気持ちや行動について考える。 ○ おばあさんの困っている様子を見て、「わたし」はどんなことを考えていたのでしょう。 ○ 「いいえ、いいんです…。」と言った時、「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 助けてあげないと。でもみんな手伝っていないしな。 男の子は大丈夫かな。迷子にならなきゃいいけれど…。 おばあさんを男の子のところへ行かせてあげたいな。 	【手立て1】 多様な見方・考え方を働かせながら自分の考えをもち、他者との考えの交流を通して、道徳的判断力を養う話合い活動の在り方	
価値の感得・理解	12	4 教材（後半）を読み、主人公の気持ちの変化について考える。 ◎ 校長先生の話聞き、「わたし」はどんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 良いことと思ってやったのに疑われてしまった。 やらなきゃよかったかな。 わたしじゃないのに、分かってくれなかった。 もう、こういうことがあってもやりたくないな。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の発言に応じて主人公が、なぜ、そのような行動（行為）に至ったのか、意見を整理・分類することで根拠を明らかにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 認められなかったら二人の行動はしなければよかった行動なのか揺さぶる発問を問い、価値の理解にせまる。 ◆ 二人の行動のどこが素晴らしいかを問い、知らない相手の立場に立ち、親切的な行動をとることができたことに価値があることに気付かせる。
		5 学習したことについて振り返る。 ○ 次のような場面で見知らぬ人が困っているとき、自分だったらどうしますか。	<ul style="list-style-type: none"> お店の人の誤解がとけてうれしい。 校長先生やお店の方に褒めてもらってよかった。 認めてもらえたから笑っているけど、例え認められなくても二人の行動は意味があったと思う。 おばあさんの気持ちになって考えたことが、正しいと分かってうれしい。 	【手立て2】 道徳的諸価値の理解を生かして、自分の価値意識を深める振り返り活動の在り方	
価値の主体化	15	6 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 困っている相手のことを考えて行動すること。 自分がされてうれしいと思ったことを相手にもしてあげたい。 相手の立場や状況を考え、声をかけていきたい。 自分は何ができるか判断して、できることをしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を示し、自分の生き方を考え、話し合う。 	【見取りの視点】学習シート 発言、表情 相手の立場や状況を捉えた上で、どのような心を大事にし、行動するとよいかを考え、判断することができる。
		○ 今日の学習を通して考えが変わったことやこれから生かしていきたいことを振り返りましょう	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考えて、見知らぬ人にも思いやりの心を大事に接していきたい。 見知らぬ人でも勇気をもって相手のためになることをしていきたい。 自分のことを我慢してでもあいでのためになることをやっていきたい。 まずは、友達に対して優しい心でかかわっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 児童の振り返りから相手の立場に立って進んで行動することの価値高さを伝える。 	

(3) 【見取りの視点】これまでの自分のことを振り返り、相手の立場や状況を捉え、見知らぬ人とかかわるためにどうしたらよいか考えている。